

# 高野 甲子雄 プロフィール

(たかの きねお)

平成 21 年東京消防庁を退官

現在 公益財団法人 原子力安全研究協会 放射線災害医療研究所 副所長

- ・ 年齢：1948年(昭和23年)生 63 歳
- ・ 山梨県甲府市出身
- ・ 消防士になった動機：高校卒業後民間会社に就職したが、会社の寮近くで火災があり、消防士の現場活動を見て志す。

昭和43年：東京消防庁に入庁

昭和54年：特別救助隊員試験に合格(4回目)、救助隊員となる。

昭和54年：麴町消防署第11消防特別救助隊隊長に就任

昭和57年千代田区永田町で発生した「ホテルニュージャパン火災」に特別救助隊長として現場に最初に駆けつけ、66名の宿泊客を救助する。

この救助功勞で「消防総監賞、東京都知事賞、消防庁長官賞、総理大臣賞(部隊賞)、都民の消防官」などの賞を頂いた。

また、平成15年にはNHKのプロジェクトXという番組で「炎上男たちは飛び込んだ」と題して取り上げられました。

この放送をきっかけとして、現在は中学校での講演とあわせて「中学生を防災の担い手」として育成する運動を展開している。

この運動は、中学生に「消火、救助、救急」の技術を習得させ、震災等の大災害時に市民と共に活躍してもらう事を目的としたものです。小金井市では全中学校で「消火・救助・救急」の技術を実施指導し定着させた。

今回の東日本大震災では発災二日後から福島に入り、住民のスクーリングを行う。

また、福島、宮城ではボランティアとして昨年は120日活動し、現在も継続中。

○ 趣味：トライアスロン、トレイルラン(山の中を走る)、読書

○ すきな言葉・・・ **「いつも心にオレンジ服を」**

(どんな時でも「人を助ける気持ち」を忘れないと言う意味)

# 緊迫した災害現場での リーダーの決断

— 基本と感性を磨け —



前東京消防庁 高野甲子雄

# 経験した火災・自然災害

- ・昭和50年11月 ブリジストンビル地下火災
- ・昭和52年 5月 料亭金田中大規模木造火災
- ・昭和54年 3月 蒲田イトーヨーカ堂鉄骨火災
- ・昭和55年 8月 東京湾貨物船火災
- ・昭和57年 2月 ホテルニュージャパン火災
- ・昭和62年 5月 大井火力発電所タンク火災
- ・平成3年 5月 東京シューズ流通センター倉庫火災
- ・平成7年 1月 阪神淡路大震災(ボランティア)
- ・平成12年 3月 北海道有珠山噴火災害(緊急援助隊)
- ・平成16年 新潟三条水害、中越地震(ボランティア)
- ・平成23年 3月 東日本大震災 福島(スクリーニング)・宮城(ボランティア)続行中
- ・平成24年 5月 つくば市北条 竜巻災害(ボランティア)

# 現場リーダーの指揮ポイント

- ① 大災害は「情報なし」から始まる 焦るな
- ② 自ら行動して情報を取れ
- ③ 全員が防災基本行動力を身につける  
危険の感性・建物・地形・人・設備・器具
- ④ 初期判断力を日頃から養え  
100%を狙うな 「60<sub>秒</sub>でよしだ！まだより早めの決断」
- ⑤ 危険と感じたら即行動開始

- ⑥ 自分の周囲に「命」を守るものが幾つあるか  
聞いて・見て・触って・動いて・動かしてみろ
- ⑦ 決断基準は「命を守る」の一点に絞れ
- ⑧ リーダーは逃げるな! 最初から腹を括ってかかれ!  
災害指揮は真剣勝負だ!
- ⑨ 災害対処の初動マニュアルは無いと思え
- ⑩ 判断と行動は単純が一番

迷って見逃し三振はリーダー失格だ

# 東日本大震災では

2011. 3. 11





# 教訓

- ①リーダーで左右される災害の初動⇒決断力を養え
- ②情報は決断の源。自分で「見て聞いて触って」集める  
現場で集めた情報が指揮のバックボーンだ!!
- ③災害は突然想像を超えてやってくる  
全員が基本行動力を身につける＋付加訓練を
- ④目的は一つ「命を救う」に絞れ  
行動は単純に、助けられる人から
- ⑤一人一人危険を感じる感覚を養え  
広い視野と早い行動が可能になる
- ⑥事故・災害は常にマニュアルを超えると思え  
「確実な行動」と「あきらめない心」